

第2回下川町総合計画審議会(快適環境・地域づくり部会)会議録

と き 令和元年10月25日

18:55～20:40

ところ 総合福祉センター「ハピネス」

〈消防署所管施策〉

出席者(委員): 山川美紀部会長、川島里美委員、高松峰成委員、野崎晃史委員

出席者(町): 多田淳浩署長、土本繁美副署長、伊東英晴主幹、大野政弘主幹

草浦辰徳係員

▽施策項目「消防・救急救助」

町 : 内容説明

委員 : 団員の定員について、町の人口変動に伴って変化しているのか。

町 : 人口がピークだった昭和35年の定員が75名だったが、現在は70名となっている。

複雑化する災害対応には相応の人数が必要なため、今以上減らすことは難しい。

委員 : 定員は条例等で定められているのか。

町 : 団員の定数は上川北部消防事務組合の条例で、署員は下川町職員定数条例の上川北部消防事務組合に派遣する人数として定められている。

委員 : 消防庁舎建替えについてはどうなっているのか。

町 : 町長をはじめ副町長、総務課長との話では、役場庁舎と一体的に考えているとしている。一の橋の第二分団詰所については非常に老朽化が進んでいるため、地域住民のニーズと実情を踏まえて建て替えをしたい。

委員 : 住宅用火災警報器の設置率は何パーセントなのか。全国平均と比べ下川はどうなのか。

町 : 今年春の防火査察で84%、近年は80～90%で推移している。全国平均から比べると高い方である。

委員 : 過去の調査から累積しているのか。

- 町 : 期間内に訪問調査した数値のみで毎回算出しており、累積はしていない。
- 委員 : 一の橋地区に消防団員は一定数いるのか。
- 町 : 第2分団が設置されており、11名在籍している。
- 委員 : 団員の世代交代は進んでいるのか。
- 町 : 65歳定年であり、何とか退職人数分は今後も確保していきたい。役場の若手職員に入ってもらっていることもあり若年層も在籍している。

〈建設水道課所管施策〉

出席者（委員）：山川美紀部会長、川島里美委員、高松峰成委員、野崎晃史委員

出席者（町）：小林大生課長、亀山貴之主幹、豊島琢磨主査技師、三宅章吾主査技師、
西本直樹主任技師、磯部慎太郎技師

▽施策項目「土地利用・市街地」

- 町 : 内容説明
- 委員 : 都市計画マスタープランについて、15年間の評価としては妥当だと思う。
今後、人口が減少する中で、何をコンパクトにしていくのか。
- 町 : 今でも下川町は十分コンパクトだが、住宅なども含めて生活区域を町の中心に集め、効率的な生活ができるように配慮した計画となっている。都市計画マスタープランは、直ちに計画を実施していくというものではない。個々の事業を進めるとき、建物などの配置が無秩序とならないよう、まちづくりについての一定の方針を定めるものである。

▽施策項目「道路・橋梁」

- 町 : 内容説明
- 委員 : 老朽化してくるので、点検しながら補修していくと思うが、矢文橋のように補修の計画はあるのか。
- 町 : 現在、点検が終わっており、橋梁長寿命化計画が策定され、それに基づきながら令和6年までに21橋を補修する予定である。そこで一区切りだが、令和6年に点検を基に計画を見直して、次の10年間で補修すべき橋梁が無いかを見ながら、長寿命化を図っていく。長期的に考えると、長寿命化を図り、

補修をした方が金額は少なく済む。

町 : 平成26年に法律が改正され、橋梁は最低でも5年に1回の点検が義務付けられた。現在、法改正後5年間の1期目で89橋の点検が終わり、必要な補修は進めている。次の5年で再び点検、補修を行っていく。橋梁の点検には特殊な機械などが必要で、点検費用や補修費用が高額である。そのため、財政負担を考慮し、予算の平準化を実施している。

委員 : 点検は専門業者が行っているのか。

町 : 専門機材を持っている業者に点検してもらっている。

委員 : 林道に架かっているような木で出来た橋も含まれるのか。

町 : 点検の対象となっている橋梁は町道に架かっている橋である。

委員 : 林道に架かっている橋の点検はどうしているのか。

町 : おそらく森林商工振興課の方で行っていると思う。しかし、林道も一定年数経つと町道に移管できることから、林道で管理している橋梁は少ないと思われる。橋梁の基準については橋長2メートル以上となっている。今年度工事をしたサンル13線のような2メートル未満の橋梁長寿命化の対象とならない橋梁も補修、架け替えをしている。

委員 : 下川は循環型林業をやっているのだから、山に入って木を切って持ってくる道路だと危険かと思う。

町 : 現在、改修を行っているサンル13線の橋はコルゲート管を使用しており、経年劣化で腐食し、材木の運搬車などの重量物が通過することにより、橋梁が破損したものである。

委員 : 橋梁は全て町の財源でやらなければならないのか。

町 : 国費の補助が66%であり、今のところほぼ満額に近い配当をされているが、今後どうなるかは分からない。

委員 : 全額負担だと大変だと思う。

町 : 町の負担は3分の1だが、額が大きいのだから財政担当と打合せしながら、単年度で大きな負担とならないように調整をしている。

委員 : 住民意向調査では橋梁の修繕は目につかない所が多いのでなかなか上がらないと思う。住民意向調査を指標にしても気付く人も少ないと思う。話は変わるが側溝を整備した南1号線はどこなのか。

- 町 : 中学校前の道路を上名寄に行った墓地の南側のところになる。
- 委員 : 冠水はあったのか。
- 町 : 以前にあった。今回の工事が完成してから大雨は降っていないが、設計上、
一帯の水は処理できる。
- 町 : 墓地周辺は以前にも工事を行っているが、完全には改善しなかった。今回の
工事後は、今のところ問題が出ていないので、効果があったと考えている。

▽施策項目「住宅」

- 町 : 内容説明
- 委員 : 買取型の公営住宅というのは一軒家を買って改修するイメージで良いか。
- 町 : 町が新築を買取るイメージである。国の補助事業で建設すると補助基準を
満たす設計としなければならないため、工事費が高くなり、町の負担も大き
くなる。そこで、通常の建築基準を満たす一般のアパートを民間業者に建設
してもらい、それを町が買取るイメージである。
- 委員 : 一般の企業が作ったマンションを町が買うということか。
- 町 : そのとおり。
- 委員 : 公営住宅は国からの補助が入るのか。
- 町 : 国からの補助金があり、およそ2分の1の補助率となっている。
- 委員 : 買取型の住宅の建設を検討していくとあるが、相手先となるようなところと
の協議はしているのか。
- 町 : 具体的な協議はしていない。実施方法も様々で、単純に住宅を建設してもら
い買取る形のほか、プロポーザル形式なども考えられる。買取型を実施す
るかどうかはまだ決まっていないので、方向性が決まったら検討したい。

▽施策項目「上水道」

- 町 : 内容説明
- 委員 : 計画的な整備推進の中には配水管は含まれるか。浄水場の設備だけか。
- 町 : 配水管は今のところ計画には無く、下川浄水場の建替えのみである。将来的
には計画を立ててやらなければならないと思っている。
- 委員 : 指標は給水人口で出しているか。

町 : 上水道の普及率で出している。

委員 : 建替えということは水道水の供給について懸念していることがあったのか。

町 : 単純に、施設の老朽化に伴う更新である。

委員 : 計画のスタートは今年からだ聞いたが、建替えの終了の年度を見通せているのか、それを含めて計画するのか。

町 : 様々な手続があり、現在は、水道事業の認可変更という手続を進めている。

委員 : 水道事業を行うために許可を受けており、許可の内容の内、給水する人口の計画などを最新のものに見直す。

町 : 新しく建てる浄水場の規模を設定するのに、給水人口を出す必要がある。現在の浄水場は人口が多かった時の設定なので、認可変更を行い、許可を取り直していく。そこから設定した給水人口や供給量を満たす浄水場建設を要望し、許可を受けたら国の事前評価による審査をうけ、認可を受けた後に設計が始まる。

委員 : いつまでに出来るかは分からないのか。

町 : 現在、認可変更の事前協議をしており、順当にいけば令和6年の4月に供給開始する予定。

委員 : 取水はサンル川か。

町 : そのとおり。現在の取水位置と変わらない。

委員 : サンルダムが出来てから名寄川の雨が降った時の濁りが無くなるのが早くなったと感じるが、関係あるか。

町 : 関係はあると思う。ダムができたことにより、増水によって濁流となり泥水が流入することが少なくなった。ダム本来の目的のひとつである洪水調整が機能している。

町 : 浄水場に勤務している人の報告だと、去年まで春先の雪解け時期に川の水が濁り、作業が大変だったが、今年はスムーズになっているとのことだった。

委員 : 集中的に雨が降り、ダムの水位が一気に上がり、放水となった時にサンル川は大きくないので、名寄川に入った時にどうなるのか。

町 : これまではダムがない状況で対応してきた。ダムは相当の貯水量があるので、これが満水となり、さらに放水が必要となる状況は、可能性としてはゼロではないが、低いと思う。

▽施策項目「積雪・寒冷対策」

町 : 内容説明

委員 : 人手不足は切実な問題か。

町 : 作業員の高齢化が進んでいるが、一部の建設事業者では若い人に技術を継承している。

町 : 建設業そのものが人手不足で、若い人がなかなか入ってこない状況である。

委員 : 高齢化はますます進んでいくと思う。除雪の ICT 事業はどうなったか。

町 : 昨年度実証したが、事業規模が小さいので、導入しても効果が薄いということになった。システムが今より普及し、小さな町でも運用できるシステムが出来れば導入の可能性はあるが、現在は研究段階なので費用も大きくなる。

委員 : 以前は町が直営で除雪していたが、民間に委託してから町民からの苦情はあるか。

町 : 苦情については、受託業者と町で情報共有しているが、年に2～3件程度である。以前から潜在的に除雪に不満を持っている人もいるとは思いますが、そのほとんどは自分の家の前に雪を残さないで欲しいというもの。道路除雪事業では、家の前の除雪は各自除雪してもらい、協力をさせていただくこととなっているので、この解決は難しい。

委員 : 流雪溝について、重いのと、凍ることがあるので開けづらくなる。

町 : 国道の流雪溝は、新しいものにして開けやすくなっているが、費用が掛かるのでその他のところは手が付けられていない。正確な金額ではないが、1ヶ所100万円ほどかかると聞いている。

町 : 老朽化したところや壊れたところを直すときにアルミの新しいものに変えている。

委員 : 余裕があれば直してほしい。

〈政策推進課所管施策〉

出席者（委員）：山川美紀部会長、川島里美委員、高松峰成委員、野崎晃史委員

出席者（町）：桜木 誠課長、亀田慎司主査、大西崇王主事

▽施策項目「地域自治・地域内連携」

町：内容説明

委員：広報紙について、魅力ある紙面づくりをしていますが、手に取ってもらえなければ仕方がないと思うが、受け取らない理由はあるか。

町：他の市町村では、フルカラーで目立つ広報紙や表紙の写真も全面が写真の市町村もある。

町：広報紙を開いていただければ、知人が出ていたり、お得な情報もあるが、手に取っていただけない方は魅力を感じないのかも知れない。まずは、手に取っていただけるように表紙の工夫をしていきたい。

▽施策項目「健全な財政運営」

町：内容説明

委員：ふるさと納税の状況やどのようなポータルサイトを活用しているのか。

町：納税額は近年横ばいに推移している。「ふるさとチョイス」と「ふるぽ」を活用した。

委員：インターネットでの申込者の方が多いのか。また、他の市町村も同じ方法で寄附のお願いをしているのか。

町：インターネットと役場窓口では、同じ位の割合である。プロモーションのかけ方をどこの市町村も悩んでいると思う。雑誌への掲載等、広告費をかけることも出来るが費用対効果の問題。

委員：返礼品について、生産者の顔が見える返礼品に魅力を感じる。

町：どういう事業者が生産していてどのような思いで生産しているか等、ストーリーを見せていくことが必要。今後模索していきたい。

委員：返礼品の人気メニューはどのようなものか。

町：アスパラやフルーツトマトが人気だが、季節物なので、通年通じて出せる返礼品ではないため課題。昨年から今年にかけて返礼品は8品ほど増やしては

いる。注目を集めるために高額メニューを考えていくことも必要。

▽施策項目「広域行政の推進」

町 : 内容説明

委員 : 近隣市町村との広域連携の具体例として、救急医療業務や公共交通の他にどのような事業があるのか。

町 : 介護認定の審査会を広域で行っている。

町 : その他には、水道の水質検査、医療関係では近隣病院間のネットワーク化など。一市町村で事業を実施するよりも広域で取り組んだ方が効果的であったり、共通課題の解決に資するような事業を定住自立圏構想により広域で取り組んでいる。

委員 : 全て政策推進課で事業を実施しているのか。

町 : 定住自立圏構想の窓口は政策推進課だが、具体的な事業実施は各担当課で行っている。

委員 : 最近、国から公立病院統廃合リストが公表されたが、地域医療は重要な問題であることから広域で取り組んでいくべきだと感じる。町立下川病院は、親切丁寧に診察していただいております地域医療の原点だと感じている。